

太田哲也 クルマの 神髄



第100回
アルファロメオ
ジュリエッタ
Fuel consumption: 7.7km/l (city) 6.1km/l (highway) 6.8km/l (combined)



●連載200回へ向けて●

マガジンXで仕事を始めたのは9年前。メーカーにおおむね本音トークのマガジンX（以下X）は、当時江夏の異議文（?）として、読者に呼ばれることもなく、広報室を借りることもできなかった。僕は長期休暇から仕事を始めたばかりで、そんな事情は告知らず仕事を引き受けた。業界の事情通から「他から仕事があるくなるよ、COTY（日本カー・オブ・ザ・イヤー）にも選ばれるよ」とアドバイスされた。どうしようか悩んだけど、聞き直して、正しいと思ったことははっきりと言おう。でも断固して明確にして印象批評は避け、改善案も提案する。それで業界から干されるなら仕方ない。そう決めてやってきた。車の中でたモンじゃなくていまではTypeの連載エッセイが300回、ホリデーオート連載コラムが100回。そしてついに夏も100回の長期連載達成した。その他にも仕事の依頼が増えた。時代が変わり業界もXの価値を受け入れた。Xも大手を張って読者会に行けるし、広報室も貸してくれるようになった。支持してくれた読者、仲間編集長と現代編集長。そして多くの読者さまに感謝状を。
（太田哲也）

単なる試乗レポートではなく、取り上げたクルマにこめられた開発者の思いや、社会的影響力、所有する喜びなど、カルチャー的側面を盛り下げる「クルマの神髄」
今回はアルファロメオ・ジュリエッタを取り上げる。いままでイタリア車といえは、マニア向けブランドと思われていたが、このジュリエッタは販売好調なうえに、従来とは異なるユーザー層が購入しているという。ジュリエッタとはどういうクルマなのだろうか。

自他認めるアルフィスタ

冒頭には「誇りを込めてお祝い」

僕は公私にわたってアルファ・アルファロメオにこだわっている。そもそも25年ほど前、僕が学生のとき、フォード・フェスティバという車を買った。アップグレードされたのはフィアット・グルーポ・アルファロメオはフィアットグループであり、それ以後フィアット車や姉妹のアルファロメオ車、164に始まり156GT A、GT V、166、159B、GT、147、

1000cc、プレラなども自費の足として代わってきた。

かつてイタリア人からは「アルファ・スポーツ（大衆）」と罵られ自他とも認めるアルフィスタ（意：好意）である。しかし、その強がジュリエッタに同じくは、ちよつと長く感じてスポーツカーの印象を受けないせいなのか、どうも後まよりのイメージしか残っていない。このクルマの成功を暗示しているのかもしれない。実際によく売れているらしい。



祝・連載100回達成!

ミラノの紋章とネーミング
「過去の遺産」をフル活用して
ブランドイメージをうまく使い出した印象がする

